

「ライフデザイン論 <家政学原論>」(大妻女子大学短期大学部 1年必修・2単位)

小野瀬裕子

1. 講義概要

- (1) 目標 : 人の人格と人権が尊重され、幸福に生命を継続するためには、身近な家庭生活を中心とした人間生活を総合的に捉える家政学の視点が重要であることを、家族と家庭生活の歴史 [家庭生活論・家政学史] と生活構造や生活文化の比較 [比較家政学・生活構造・生活文化] から理解する。家政学の定義、目的、対象、領域、体系、方法 [家政学論] について理解する。
- (2) 授業構成 : 毎回、前半 60 分は講義、後半 30 分は前半の講義内容に即した課題について考察し、意見交換をする。

2. 授業内容

- (1) 家政学とはどのような学問か
- (2) 家政学の定義  
諸科学からみた家族と家庭生活の機能の変化 [人類学・社会学・福祉学等]
- (3) 諸科学からみた家族と家庭生活の機能の変化 [法学・哲学等]
- (4) 日本の家政学の歴史 —明治・大正—  
教育者の経歴と活動。
- (5) 日本の家政学の歴史 —昭和・第二次世界大戦直後まで—  
日本国憲法 24 条家庭における男女平等・個人の尊厳の草案を起草したベアテ・シロタの経歴とベアテ草案から学ぶ。
- (6) 日本の家政学の歴史 —第二次世界大戦後—
- (7) 世界の家政学 —ヨーロッパ (ドイツ・北欧諸国)—  
生活構造の捉え方・生活文化の違い。
- (8) 北欧の家庭生活  
日本の家庭生活を客観的にみるため他国の家庭生活と比較。
- (9) 世界の家政学 —アメリカ合衆国—  
エレン・リチャーズの経歴と活動から学ぶ。
- (10) 家政学の目的と方法  
家庭生活を中心とした人間生活を総合的に捉える家政学的視点の理解。  
生活の豊かさとは何かを考え、QOL(生活の質)を高めるため、生活を把握し研究する。
- (11) 家政学の領域と体系
- (12) 日本家政学会誌等の学会誌の論文
- (13) 生活構造
- (14) 共生社会における今後の家政学
- (15) 総括

### 3. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

人の人格と人権が尊重され、幸福に生命を継続するためには、何が必要でしょうか。

内閣府による「幸福度指標」では、幸福度を支える要因として、経済社会状況、健康、家族などの関係性、持続可能な社会と環境をあげています。これらは、家庭生活を中心とした人間生活を総合的に捉え、生活の向上をはかる家政学の視点と重なります。

家政学原論の授業では、生活をよりよく変え、人類の福祉に貢献するために必要な力をつける家政学の視点を、学生が具体的に実感を伴って理解できるように、身近な家庭生活と社会情勢や環境を相互に関連させながら、以下の内容を講義しています。

- (1) 家族と家庭生活の知識と分析、諸科学との関連
- (2) 日本の家政学史
- (3) 世界の家政学 生活構造の捉え方・生活文化の違い
- (4) 新たなパラダイムを創りだした人の経歴と実践から学ぶ
- (5) 家政学の目的と方法

生活の質(QOL)を高めるために生活を見直し、改善

- (6) 家政学の研究領域と体系
- (7) 今後の家政学

特に、自分の得意分野を生かし、生活者の視点から生活の向上のために新しいパラダイム（新しい生活構造、法律等のルールづくり、教育活動）を創り出した人物の経歴と活動を具体的に紹介すると、家政学の視点の重要性について理解しやすい。たとえば、エレン・リチャーズ(アメリカ家政学)、ベアテ・シロタ(日本国憲法の家庭における男女平等条文起草)、大学の創始者など。学生自身にも得意分野や経験を生かして家政学を研究することで、自分の生活を充実させ、社会貢献しようという意欲を導きだしたいと思います。

各授業時の後半は、授業に関連した課題を設け、学生に自分自身の問題として主体的に考えさせています。課題について考察した後、学生同士で意見交換をすることから、多様な立場の人の見方を知ることができます。それらを総合的に把握したうえで、生活向上のための新たな視点を見出し、よりよい生活のために実行する機会づくりにしたいと思います。

#### 講義後の課題の例

「家庭の機能とは、現状とこれから。」「日本国憲法に家庭における男女平等、個人の尊厳の条文を起草したベアテ・シロタの経歴と活動から学ぶこと。」「日本と他国の家政学の歴史、領域と体系、家庭科の学習目標を比較して、生活文化の違いについて考えること。」「エレン・リチャーズの経歴と活動から学ぶこと。」「生活の豊かさとは。」「文明の利器について、家政学の視点から考える。」「家庭における問題について、どのように人的・物的環境を整え、支えあって生活を営むか。」など